

1

古文単語 330 テスト P. 26, 33

基本古語 動詞 1

年 組 番 名前

点

1 次の傍線部の現代語訳として最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

- ① 夕月夜のをかしきほほどに、(使者を)出だし立てさせたまひて、(帝は)やがてながめおはします。
 ア もの思いにふけてつて イ じつところらえて
 ウ 長雨に濡れて エ 長居をして
- ② 東の五条わたりに、いとしのびて行きけり。
 ア 着飾って イ 喜びいさんで
 ウ 人目を避けて エ 懐かしく思つて
- ③ (男が)文やるに、(女は)憎からず返事はしながら、逢ふ事はなかりけり。
 ア 読む イ 破り捨てる
 ウ 勉強する エ 送る
- ④ 火などいそぎおこして、炭持てわたるもいとつきづきし。
 ア 横切る イ 相手に渡す
 ウ 灯をつける エ 通つて行く
- ⑤ 右の馬の頭なりける人を、常にゐておはしましたけり。
 ア 寵愛して イ 引き連れて
 ウ 世話をして エ 座つて

2 次の傍線部を現代語訳せよ。

- ⑥ ただ一人、ねぶたきをねんじてさぶらふに、
 訳 ただ(自分)一人が、眠たいのを [] お仕えしていると、
- ⑦ 二人の子は、情けなくいらへて止みぬ。
 訳 二人の子は、(母に対して)思いやりなく [] (取り合わずに)終わった。
- ⑧ 菰積みたる舟のありくこそ、いみじうをかしかりしか。
 訳 マコモ(「水草」)を積んだ舟が [] のが、たいそう趣深かった。
- ⑨ この僧に具して、山寺などへいなんと思ふ心つきぬ。
 訳 この僧に []、山寺などへ行こうという気持ちが起こった。
- ⑩ あるいはおのが家にもりゐる、あるいはおのが行かまほしき所へいぬ。
 訳 ある者は自分の家にもつており、ある者は自分が行きたい所へ []。

⑨	⑥	①
		②
⑩	⑦	③
		④
	⑧	
		⑤